
異世界逃避行幻想譚～異世界人と巫女達と神々と時々邪神～

架引

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界逃避行幻想譚〜異世界人と巫女達と神々と時々邪神〜

【Nコード】

N3852Z

【作者名】

架引

【あらすじ】

この作品は、作者の作品『邪神を宿した少女と異世界の少年』のリメイク版です。

何の変哲もない高校生生活を謳歌していた少年は、突如発生した空間の歪みに巻き込まれ、異世界へとトリップしてしまった。

そこは神話の息づく、ファンタジーの世界。出会った少女を助ければ彼女はまさかの訳ありで、逃亡生活を余儀なくされて……しかも帰る方法無し！？

ファンタジーな世界に迷い込んだ高校生と訳あり巫女達の逃避行

を描く物語、ここに誕生です。

ブログ

とある日曜日。俺、かくら<ruby><rb>神楽有馬</rb><rp>(</rp><rt>ゆづま</rt><rp>) </rp>></ruby>(18歳)はその日、近くのコンビニで昼ご飯を買って、家に帰る途中であった。

冬も半ば、厳しくなってきたこの時期。俺は煮込み餛飩を購入し、身体の内側から温めようとしていた。

「こういう寒いときはラーメンでも良いんだけどな……」

などと言いながらも餛飩を選んだのは、何となく、である。実際、俺の好物は麺類だが、何を食べるかはその時の気分によって、餛飩、蕎麦、中華蕎麦、パスタなど様々だ。

「しかし、今日はいつもより幾分風が冷たいな」

そう愚痴をこぼしながらも、足取りを確かに、自宅へと足を進める。

早く、寒い外から暖房の効いた室内へと入りたいという意思の表れか、幾分歩調が速いのは気のせいか。

しかし、コンビニから出て五分程度経ったところで急に体に異常を感じた。

(何だ、これ……)

いや。異変があるのは、自分ではなく自分の周囲だろうか。

最初は、眩暈かと思った。だが。違った。世界が、歪んでいる。

まるで波立つ水面を見るかのように、周囲の光景が浮き沈みしているかのような、皺が出来ているかのような。とにかく形容しがたい歪みが、視界全体、見回す限りに広がっていた。

何だ、これは。そう思い、思わず足を止めてしまった俺は決して咎められるべきではないだろう。

やがて、それは重さに耐え切れなくなったかのように。

キキキキキキ……と、不吉な音を立てながら、ピキピキ、と

ひび割れていった。

本能で察してしまった。

これは、まずい……。何がどうしてどのようなに具体的なにはわかんないけど……。でも、かなりまずいっ！

これ以上ここに留まっていると、とてつもなく大変な目に遭う気がする、と。

だが。同時に、気付いた。……。逃げ場が、ないことに。

前後左右、四方八方どちらへ行こうにも、もう手遅れ過ぎた。

ひびは既に自分の周囲、果てには頭上まで球場に自身を包んでおり。もはや何処にも逃げる事が出来ない状態だった。

「何だよ、これ……。何なんだよ、これ……。……」

思わずその場で叫んでしまった。

いきなり周囲の光景が歪んだかと思えば何もない空間にひび。立て続けに異なことがおきて。

俺はもう、既にオーバーフロー状態、俺のライフはもう零だ。

そして。

そんなわけがわからず頭を抱え込んでいる俺を取り込んだままで――……。パライイイイイイイイイン……。……と、空間は、抑え込んでいた力に耐え切れなくなっただかのように。

強烈な光を発して、爆ぜた。

「ん……。う、ああ……。……」

強烈な光が収まってから数分して、眩んだ目もやっと元に戻った。一体何が起きたのか理解が及ばないままに、しかし周囲がどうなったのか確認だけはしたいと本能の赴くままに目を開ける。すると……。

「……。何だ、何処……。……」

そこに広がっていたのは、石造りの、湿っぽい通路だった。

「え？　？」

そして。目の前には、鉄の檻と、その中に入れられ、枷を嵌められた、巫女装束の少女だった。

「……………はあ……………。マジ、何なんですかこれは……………」
もはや理解不能。もうどうにでもなれ、と開き直った。

ん……………。

頭、痛い……………。

ここ、は……………え？

牢屋！？

何で……………はっ！？そうだった、私、捕まっちゃったんだ……………。

私の名はシール「デストラクティ」。

一応……………とある『巫女』を務めている。

今朝、と言っているのかはわからないけど、目が覚めたら私は第一級手配犯になっていた。

新聞に載っていたのでそのことにはすぐに気付いた。

でも、理由はわからない。ただ、新聞を見た限りでは、市民に不安を煽り、治安を悪化させているのだ、在りもしないホラを吹いているのだ、散々な理由。しかもそのどれもが出鱈目だった。

とにかく、第一級といえば捕まれば弁解の余地なく処刑だ。

そう考えて、家の外に出た…まではよかったが、既に遅く、家は包囲されていた。

抵抗虚しく、私は取り押さえられ、暴れたものだから気絶させられてしまったんだっただけね。

そして、現在に至る、と。

はあ……………。取りあえずは現状を確認したいし、看守でも呼んで説明してもらおう。じゃなきゃ気が済まない。

「誰か！ 誰かいらないのですか！」

……………。

返事は何もない。うんともすんとも聞こえない。

はあ……これじゃ状況は解らず仕舞い、かな。どうしよう……。

考えても致し方ない、か。それに第一級犯罪だと状況確認したところで結果は目に見えている。即ち、私が辿る運命は形だけの裁判をして処刑、というのに他ならないだろう。なら、何を考えても無駄だろう。

気落ちして、自分の腕を見る。正確にはその自由を奪っている枷か。

そこにあるのは、魔法……と言うより魔力を出せない、ということからおそらくは魔封じの枷だ。

魔法が使えなければ、私は雑魚も同然。

なら脱出も不可能。もとより一国を相手取るなど具の骨頂だからする気も起きないが。

致し方ない。もう一度そう結論付け、寝っ転がって頭の後ろで手を組んだ。……やっぱり枷がある分、いくらか心地悪いな。

「ん、ん……………」

何もすることがなくて、何の気無しに手の甲の紋様？ を見た。

そういえば、この紋様は生れつきこの位置にあった。

これは、何なんだろうか。母さんや父さんはこれについては一切教えてくれなかった。

知らなくて教えてもらえなかったんじゃないって、知っててなお、隠すかのように教えてもらえなかったって感じた。

何なんだろうか、これは。

ウーン……駄目だ。今は何を考えても増えるのは疑問ばかりだ。解決策が見つからない。

……いや、そりゃまあ、全うな理由で第一級犯罪、それなら理解できるけど？

心当たりがないどころか、理由がめちゃくちゃじゃん！ そんなんで処刑されたんじゃないでしょ！

まあ、弁明の余地なく処刑台行きの私にはそんなこと言える立場

もない。

「はあ……………」

ため息をついて、再度頭の後ろで手を組んだ。

どれくらい時間が過ぎただろうか。

「暇だな……………ん？」

急に、奇妙な音が聞こえ、その音源の方を見れば、鉄格子の向こう側で空間に歪みができていた。一体何だろう。

気になってそちらを見ていると、次第にその空間自体にひびが入り。

——……………パライイイイイイイイイン……………と、弾け飛んだ。

「きゃっ」

不自由な腕で顔を庇う。別に悪影響がなかったからよかったが、もし破裂した空間が固定されたままだったなら、破片が刺さって満身創痍になっていただろう。

そして、破裂した空間を見て、呆然とした。

何故なら。思いもよらない光景が、そこにあったからだ。

「え？ 人……………？」

そう、それは見たことのない服装の、白い袋を手に持った男性だった。

「……………はあ……………。……………」

そして、その男性は、意味不明な言葉を喋っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3852z/>

異世界逃避行幻想譚～異世界人と巫女達と神々と時々邪神～

2011年12月13日00時58分発行